

“歯周ポケット”にひそむ「歯周病菌の巣」の内部まで浸透殺菌する歯周病予防ハミガキ 『デンターシステムライオン』改良新発売

ライオン株式会社（社長・藤重 貞慶）は、殺菌成分「IPMP」が、通常の殺菌剤では浸透しにくい“歯周ポケット”の奥にひそむ「歯周病菌の巣（バイオフィルム）」の内部まで浸透して徹底殺菌する歯周病予防ハミガキ『デンターシステムライオン』に、浸透剤を新たに配合し、さらにパッケージデザインを一新して2008年3月より全国にて改良新発売いたします。

※歯周病は、歯肉炎・歯周炎の総称です。

1. 発売の狙い

歯周病にかかっている人は20代で約75%、30～60代では80%以上にのぼっています（厚生労働省・平成17年歯科疾患実態調査）。当社調査によると、ハミガキに対して歯周病予防効果を期待する割合は拡大しており、特に40代での伸びが大きく、歯周病予防への関心は益々高まっています。

当社が2004年9月に発売した『デンターシステムライオン』は、通常の殺菌剤では浸透しにくい“歯周ポケット”の奥にひそむ「歯周病菌の巣（バイオフィルム）」の内部まで浸透して徹底殺菌する成分「IPMP（イソプロピルメチルフェノール）」を配合し、さらに抗炎症成分を配合した歯周病予防ハミガキです。この度は、殺菌成分「IPMP」の浸透力をさらに高める浸透剤「PEG（ポリエチレングリコール4000）」を新たに配合し、同時にパッケージデザインをリフレッシュして改良新発売いたします。

2. 発売日・地域 2008年3月 全国

3. 改良のポイント

① 殺菌成分「IPMP」の浸透を高める浸透剤「PEG」を新配合

② デザインをリフレッシュ

歯と歯ぐきの狭いスキ間“歯周ポケット”の奥まで浸透殺菌するイメージを、黒とエメラルドグリーンのグラデーションにより表現したパッケージデザインにしました。

4. 商品特長

①殺菌成分「IPMP」と抗炎症成分「ε-アミノカプロン酸」配合で、歯周病を予防する

<1>殺菌成分「IPMP（イソプロピルメチルフェノール）」が、“歯周ポケット”の奥にひそむ「歯周病菌の巣（バイオフィルム）」の内部まで浸透して徹底殺菌

「歯周病菌の巣」は、薬剤などが非常に浸透しにくいという性質をもっています。この強固な「歯周病菌の巣」の内部まで浸透して殺菌することができる成分「IPMP」を配合。“歯周ポケット”の奥にひそむ「歯周病菌の巣」の内部までしっかり殺菌します。<参考資料参照>

【歯周病菌の巣（バイオフィルム）】
歯周病の原因で、歯と歯ぐきの狭いスキ間“歯周ポケット”で増殖する細菌のかたまり（集合体）。強固な表面で覆われており、通常殺菌成分は中まで届きにくい。細菌が増殖しながら毒素を放出し、歯ぐきの炎症を引き起こす。

<2>抗炎症成分「ε（イプシロン）-アミノカプロン酸」が歯ぐきの炎症を抑えて歯周病を予防

②殺菌成分「IPMP」の浸透を高める浸透剤「PEG（ポリエチレングリコール4000）」を配合

③歯質を強化して、ムシ歯を予防する「フッ素（フッ化ナトリウム）」配合

④メディカルペパーミントの香味でみがき心地がスツキリ

5. 容量・価格

商品名	容量	小売価格
デンターシステムライオン タテ型（医薬部外品）	130g	オープン価格

以上

<参考資料>

■歯周病の原因は、「歯周病菌の巣（バイオフィルム）」

これまで一般的に歯周病の研究は、主に「単体の病原性細菌」に対してなされてきました。しかし歯周病菌は、歯と歯ぐきのスキ間“歯周ポケット”に細菌の塊（集合体）を形成して「歯周病菌の巣」として存在しており、この「歯周病菌の巣」は殺菌剤など薬剤の内部への浸透が非常に難しい性質を持っていることから、歯周病の主原因は単独で存在する病原性細菌ととらえるのではなく、「歯周病菌の巣」としてとらえる必要があります。

■殺菌成分「IPMP」は、通常の殺菌剤など薬剤が浸透しにくい「歯周病菌の巣（バイオフィルム）」の内部まで浸透して殺菌する

当社は、通常の殺菌剤など薬剤が浸透しにくい「歯周病菌の巣」に、殺菌成分「IPMP」が浸透して内部の菌を殺菌する効果があることを確認しました（2004年秋「日本歯周病学会」などで報告）。

お問い合わせ窓口

<報道関係の方> 広報部 03-3621-6661
<消費者の方> お客様相談室 03-3621-6611